

抗生物質利用によるタバコ野火病防除について

田 中 勇*

TANAKA, I. Control of Tobacco Wild Fire by application of Antibiotics

抗生物質利用による野火病防除を、in vivo において試みているが現在迄判明せる事項を報告する。

実 験 方 法

1) 抗生物質処理タバコの野火病罹病度に及ぼす影響 3種の抗生物質につき夫々 200 γ , 500 γ の水溶液を裏面撒布し, 48時間後病菌ドロップ接種を行い, 適温下で発病状態を調査した。

2) 同葉汁の病菌繁殖に及ぼす影響 上記処理葉より得た無菌濾液(処理後15日)内の病菌繁殖を, 平板, 斜面により調査した。

3) ストマイに展着剤, 安定剤を添加せるものを3段階の濃度で処理したタバコ葉汁の病菌繁殖に及ぼす影響を行った。採集は処理後1週間。

結 果

1) 発病時は着葉位置により異り, 着葉位置5枚目

葉における500 γ の場合は全く発病が認められなかつた。4枚目葉においては, 病斑進展度に影響が認められ, 病斑部を, 壊疽部, 黄色部, 黄緑色部に分けて調査すると判然とする。即ち処理株の壊疽, 黄色部の減少は, 病菌繁殖抑制に伴う中毒現象の低下を意味し, 注目に値する。供試抗生物質間の差異は判然でない。

2) 平板, 斜面共に大差は認めぬが, オーレオマイ 500 γ の場合強く影響を認めた。

3) 平板, 斜面共に影響が顕著であり, 特に500 γ 以上の高濃度の場合には著しい。

む す び

抗生物質利用による植物病害防除の基礎的な問題は数多く残されているが, 筆者等は取敢ず本実験を行い, 特に防除効果を有する力価の抗生物質が容易に葉面吸収する事が証明出来た事は, 実用面への発展として, 大きな期待がもたれるものである。

*日本専賣公社鹿児島たばこ試験場